

サンデン・フォレスト
陸生昆虫モニタリング
調査報告書

平成 26 (2014) 年 11 月

松村 行栄

1. 調査の目的

サンデン・フォレストは赤城山の南斜面、標高 450m の前橋市粕川村室沢にある。かつてはスギ、ヒノキ植林地、クワや野菜の畑、果樹園などの耕地や牧草地、そしてアカマツやコナラの雑木林が残る里山であった。ここに自然工法を用いて工場を設置した。工場稼働後も雑木林の活用やビオトープの整備、自然観察会の実施など、環境に配慮した取り組みが行われている。

今回の調査では里山環境から工場の造成、その後の環境整備事業により自然環境がどのように変化しているかを検討するための基礎資料とするため、昆虫相の調査を実施した。

2. 調査

調査は2013年10月19日、2014年1月17日、6月29日、7月12日、8月5日～6日の5回実施した。また、8月の調査ではライト付FIT (flight interception trap) を設置し2014年8月13日、20日、27日に確認を行っている。また、トンボ目、チョウ目に関しては2014年月15日、6月20日、7月16日の水生動物調査時にも調査を行った。

3. 調査場所

今年度の調査では昆虫の生息環境として良好と思われるホテルの里・ドングリ広場（西ビオトープ）、東ビオトープ、自然公園（自然活動の森）、および室沢交流の森を中心に実施した。

4. 調査方法

陸生昆虫は調査方法により確認できる種が異なるため、以下の方法を併用した。

- 見つけ取り法（目視）
- スウィーピング法
- ビーティング法
- 灯火採集法
 - ライトトラップ
 - ライト付き FIT (flight interception trap)
- ベイトトラップ法
- 朽ち木崩し法

5. 調査結果

トンボ目 17 種、バッタ目 5 種、ナナフシ目 1 種、アミメカゲロウ目 5 種、カメムシ目 18 種、コウチュウ目 158 種、シリアゲムシ目 1 種、ハエ目 2 種、チョウ目 51 種、ハチ目 4 種：計 10 目 262 種を確認することができた。

このなかでクロサヒラタアトキリゴミムシは群馬県初記録であった、その他詳細は添付リスト参照

6. 考察

(1) ホタルの里・ドングリ広場（西ビオトープ）

この地域にはオオムラサキ・ヤマユガの飼育舎が設置されている。良好なコナラ林と水辺環境があり、多くの森林性昆虫が確認できた。林内にはアカメガシワやムラサキシキブなどがあり、花期には花に昆虫が集まる。林床の開けた場所には、ヒメジョオンなどの花が咲き昆虫が集まる。

一部の林床にササが繁茂しているが、除去しヒヨドリバナ等を増やすと、晩夏のアサギマダラなどを楽しむこともできるようになる。

(2) 東ビオトープ

周辺の林は西ビオトープに比べ暗い感じがする。ササで発生する食肉性のゴイシシジミは、ここだけで確認できた。また、野生のオオムラサキを確認できた。池周辺は日当たりが良すぎて昆虫は少ないが、ヒメジョオンには様々な昆虫がみられた。

(3) 自然公園（自然活動の森）

ここは下草の刈り払いが頻繁に行われて過ぎていているようで乾燥が進んでいる。倒して積んである木では多くのカミキリ類を確認することができた。落ち葉を積み重ね堆肥にするとカブトムシがさらに発生すると思われる。

クワの古木は様々な昆虫の発生場所となるので、大切に維持することが望まれる。

(4) 室沢交流の森

この地区が最も昆虫が豊富だったので、夜間の調査はここで実施した。群馬県初記録のクロサヒラタアトキリゴミムシもここで、ライト付き FIT で捕獲できた。近年、赤城山南面で良好に保存されている雑木林がほとんど無く、重要な場所である。ここも下草刈り払いが頻繁過ぎていているようと思われる。毎年、下草刈りをする場所を変えて、林下の草本

層を育成するようにすることにより、昆虫層も多様になると思われる。

なお、今回の調査は群馬昆虫学会の生田稔彦、大橋健司、須田亨、新島純、村田元彦の各氏（アイウエオ順）、群馬県自然保護連盟の服部國士氏の全面的なご協力があり実施できたことを報告し、皆様に感謝を申し上げたい。



アカスジカメムシ



アカスジキンカメムシ



ドクガ



タケカレハ



モモブトスカシバ



オオムラサキ



アカハナカミキリ



センノキカミキリ



ライト付き FIT